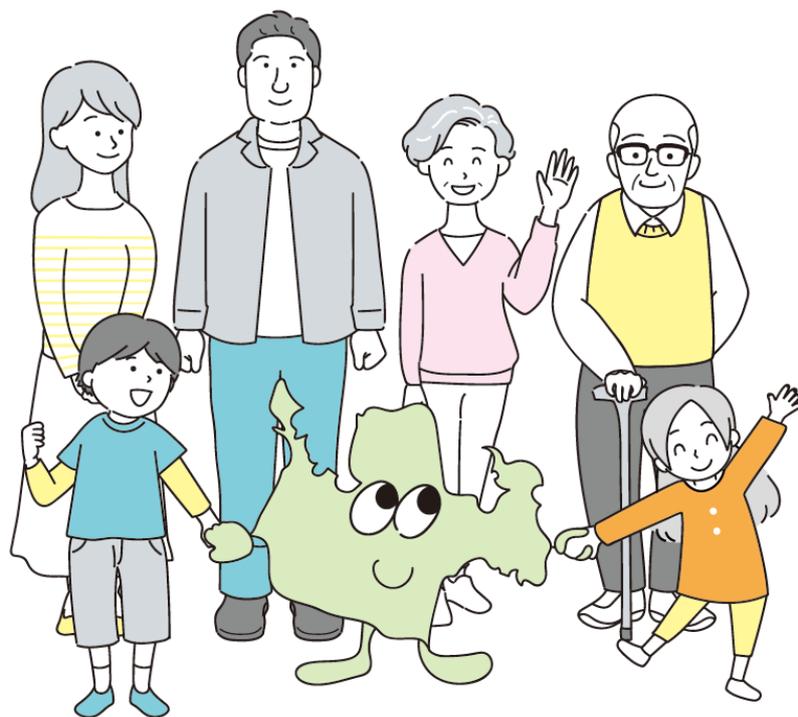


# 調布市民意識調査報告書

令和 5 年度版



令和 6 年 3 月

調 布 市



## 目次

第1章 調査の目的と概要	1
1 調査の目的	3
2 本報告書の特徴	3
3 調査の内容（設問の構成）	4
4 調査方法及び調査期間	8
5 回収の結果	8
6 地域区分	9
7 報告書を見る際の注意事項	10
第2章 回答者の属性	11
第3章 調査結果	23
1 調査結果の概要	25
(1) 回答者の属性	25
(2) 今後の定住意向	26
(3) 市政全般に対する満足度・優先度	26
(4) まちづくり指標	30
2 集計結果	42
(1) まちの魅力と今後の定住意向	42
(2) 市政全般（くらし）	53
(3) 日ごろの意識や行動	96
防災について	96
防犯対策について	107
各種相談について	112
地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉について	114
健康づくりについて	126
生涯学習について	135
スポーツ振興について	140

地域コミュニティについて .....	144
産業・農業・観光について .....	157
芸術・歴史文化について .....	183
良好な市街地について .....	187
道路・交通について .....	202
住環境づくり・地球温暖化対策について .....	219
平和について .....	229
児童虐待・人権・男女共同参画について .....	233
市民参加について .....	248
市政等の情報について .....	253
行政のデジタル化・スマートシティについて .....	262
(4) 公共施設マネジメント .....	266
<b>【参考】 調査票</b> .....	271

# 第1章 調査の目的と概要

---



## 1 調査の目的

調布市は、調布市基本構想（令和5年度～令和12年度）及び調布市基本計画（令和5年度～令和8年度）に基づき、総合的かつ計画的なまちづくりを進めています。

調布市基本計画では、計画期間中の各施策の成果を図る目安として「まちづくり指標」を設定しています。

調布市民意識調査は、「まちづくり指標」の現状値や、市民が日常感じているくらしの満足度、市の施策に関する市民ニーズ等を把握し、今後の市政・まちづくりに活用することを目的としています。

また、調布市は基本計画と連動させ、「調布市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「調布市総合戦略」という。）を整理しており、国のまち・ひと・しごと創生基本方針を踏まえ、調布市における地方創生の取組を示しています。

調布市総合戦略においても、施策の効果を検証するため、成果指標を設けており、本調査により数値を把握することとしています。

## 2 本報告書の特徴

### 「まちづくり指標」の現状値を把握

基本計画（令和5年度～令和8年度）の分野別計画では、全30施策、98項目のまちづくり指標を設定しています。そのうち、本調査により把握するものは19施策32指標となっています。

また、5つの重点プロジェクトの到達点として、15指標を設定しており、うち12指標を本調査により把握しています。

これらの指標について令和5年度における現状値を把握するとともに、経年変化の比較を、表やグラフを用いて、分かりやすく記載しています。

### 満足度と優先度の両面から分析

効果的・効率的に行財政運営を進めるため、市民が普段のくらしの中で感じている、市政全般に対する満足度と合わせて、今後において解決、改善、向上に向け取り組むべきと思う施策の優先度を把握することにより、今後、重点的に力を入れて改善すべき分野を分析しています。

### 調布市総合戦略に位置付けた「基本目標における数値目標」及び「重要業績評価指標(KPI※)」の現状値を把握

調布市総合戦略では、施策の効果を客観的に検証するため、基本目標ごとに数値目標を、また、施策ごとに重要業績評価指標（KPI）を設定しています。

調布市総合戦略におけるKPIは、基本計画で設定しているまちづくり指標と連動しているため、本調査では、KPI全98指標のうち、32指標の現状値を把握します。

※重要業績評価指標（KPI）…Key Performance Indicator の略。各施策の効果を客観的に検証するため、施策ごとに設定する成果指標をいう。

【図表 調布市基本構想・基本計画・総合戦略の計画期間】

年度 (西暦)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)
基本構想	調布市基本構想							
基本計画	前期基本計画				後期基本計画			
総合戦略	調布市総合戦略							
市長任期								

3 調査の内容（設問の構成）

調査の設問は、「あなたご自身のこと」、「まちの魅力と今後の定住意向」、「市政全般（暮らし）」、「日ごろの意識や行動」、「公共施設マネジメント」の5区分で構成されており、具体的な設問内容は以下のとおりです。

【図表 設問の構成】

問	設問内容	基本計画まちづくり指標(R5~R8)	報告書掲載頁	
<b>回答者の属性等</b>				
1	性別		13	
2	年齢（令和5年10月1日現在）		13	
3	家族構成		14	
4	同居する家族		14	
5	職業		15	
5-1	通勤（就業）・通学先		15	
6	普段閲覧・活用しているSNS		16	
7	居住する住居形態		16	
8	現在の居住地域		17	
9	居住年数		18	
10	以前の居住地域		18	
10-1	調布市に住んだきっかけ		19	
10-2	家族構成や家族の状況が変わった理由		20	
<b>まちの魅力と今後の定住意向</b>				
11	あなたは、調布のまちに親しみや愛着を感じていますか。		42	
12	あなたは、今後も調布市に住み続けたいと思いますか。		44	
12-1	あなたは、調布のまちの魅力や個性・特色は何だと思えますか。		47	
12-2	「事情が許せば転出したい」「転出するつもりでいる」と思う理由		50	
<b>市政全般（暮らし）</b>				
13	次のそれぞれの取組に関して、普段の暮らしの中で感じている「①満足度」と、今後における市の取組としての「②優先度」をうかがいます。		53	
	基本目標1	地震への災害対策	○	63
		風水害などへの災害対策	○	
		火災などへの消防対策		
		防犯対策		
	基本目標2	子育て支援サービス	○	65
		ひとり親家庭への生活・経済面の支援		
		小・中学校の教育	○	
		青少年の非行防止や健全育成対策		
	基本目標3	社会生活を営む上で困難をかかえる子ども・若者への支援	○	68
		高齢者の福祉	○	
		障害者の福祉	○	
		労働セミナーや就職面接会の開催など、雇用・就職に向けた取組		
		健康診断などの保健サービス		
	基本目標4	医療体制の充実		71
		共生社会の充実・パラハートちようふの取組		
		図書館	○	
		たづくりを中心とした生涯学習		
		スポーツ振興		
	基本目標5	公民館	○	73
		地域コミュニティ（自治会・地区協議会など）の活動支援		
		人権に関する啓発・相談		
		女性の社会参加・参画		
		多様な性（性的マイノリティなど）の理解への取組		
基本目標6	平和・国際交流の取組		76	
	日常の買い物の便利さ	○		
	市内工業・商業などの活力			
	市内中小企業に対する支援			
	深大寺などの地域資源を生かした観光振興			

設問		基本計画 まちづくり指標 (R5~R8)	報告書 掲載頁
問	内容		
基本目標6	調布花火		76
	「映画のまち調布（映画・映像を“つくる・楽しむ・学ぶ”まち）」を進める取組	○	
	グリーンホール・たづくり・せんがわ劇場などを中心とした文化芸術活動		
	歴史・文化財の保存や継承		
基本目標7	街並み・景観		80
	中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）の活気・にぎわい		
	自宅周辺の居住環境（バリアフリーや耐震化など、ハード面の整備）		
	道路の整備（新設、拡幅を伴う改良）		
基本目標8	既設道路の維持管理（損傷した部分の補修、清掃、点検等）		84
	緑の保全・創出や自然環境の保護	○	
	2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた取組		
	公園や遊び場		
行革プラン2023	ごみ処理		87
	生活環境（騒音・悪臭・野焼きなどへの対策）	○	
	市民参加と協働の取組		
	市報、ホームページ、フェイスブック、調布エフエムなどを活用した市政情報の発信		
	ホームページの見やすさ		
	民間活力の活用の推進など簡素で効率的な組織づくりの取組		
	窓口・電話における職員の対応		
	職員数の見直しや職員給与の適正化の取組		
	行政サービスのデジタル化の取組		
公共施設等の総合的なマネジメントに関する取組			
行政評価の取組			
支出の節減、収入の確保、受益者負担の適正化など			
13-1	あなたは、問13の取組項目の中で、今後、市がもっと力を入れるべきだと思う取組はどれですか。		92
<b>日ごろの意識や行動</b>			
14	あなたは、日ごろからどのような防災対策に取り組んでいますか。	○	96
14-1	「まだ取り組んでいないし、取り組む予定もない」の主な理由をお聞かせください。		105
15	あなたは台風や地震等の災害時にどのように情報を得ていますか。	○	106
16	あなたは、自分の住んでいる地域が治安の面で安心して暮らせる場所だと感じていますか。		107
17	あなたは（ご家族を含む）、特殊詐欺被害防止のためにどのような対策をしていますか。	○	110
18	あなたは、消費者トラブルに関する相談を、市役所3階の消費生活センターで受け付けていることを知っていますか。		112
18-1	消費者トラブルにあった場合にはどこに相談していますか。		113
19	あなたは、地域福祉や高齢者福祉に関する次の相談窓口を知っていますか。		114
20	あなたは、地域における交流の場（「ひだまりサロン」など）についてどのように感じますか。		124
21	あなたは、「パラハート月間」を知っていますか。		125
22	あなたは、心身ともに健康だと感じていますか。	○	126
23	あなたは、定期的に以下の検診を受けていますか。	○	128
24	あなたは普段、たばこ（紙巻きたばこ・加熱式たばこ、葉巻）を吸いますか。		132
25	あなたは、調布市受動喫煙防止条例（平成31年3月公布、令和元年7月施行）を知っていますか。		133
26	あなたは、この1年間に、生涯学習に取り組みましたか。	○	135
27	あなたは、生涯学習に関する情報を何から入手していますか。		137
28	あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、まちづくりや仲間づくり、地域活動など自分以外のために生かしていますか。	○	138
29	あなたは、健康・体力づくりのために体を動かしていますか。	○	140
30	あなたは、地域のコミュニティ活動が行われていると実感する機会がありますか。	○	144
31	あなたは、「地区協議会」を知っていますか。		146

## 第1章 調査の目的と概要

問	設 問	基本計画 まちづくり指標 (R5～R8)	報告書 掲載頁
	内 容		
32	あなたは、この1年間に、地域の活動やイベントに参加しましたか。	○	148
32-1	参加した団体、活動、場所。		150
33	あなたは、この1年間に次のイベントや施設、場所に行ったことがありますか。		157
34	あなたは、調布市が、名誉市民・水木しげる氏が50年以上暮らし、「ゲゲゲの鬼太郎」や「悪魔くん」など、数々の作品を生み出した「水木マンガの生まれた街」であることを知っていますか。	○	171
35	買い物や食事など、お店選びで重視していることは何ですか。		172
36	令和5年度調布市キャッシュレス決済ポイント還元事業についてうかがいます。あなたは、この事業を利用しましたか。		176
36-1	キャッシュレス決済ポイント還元事業終了後、キャッシュレス決済サービスを利用していますか。		177
36-2	「36-1」の回答のうち、市内の店舗で利用する割合はどれくらいですか。		178
37	あなたは、市内農家の農産物直売所（市内スーパーの直売コーナー、農協直売コーナーを含む）を利用していますか。		179
38	あなたは、市内に農地が必要だと思いませんか。		181
39	あなたは、この1年間に、市内・市外を問わず、文化芸術（音楽、演劇、美術、舞踊等伝統芸能、映画など）の鑑賞や、自ら文化芸術活動を行いましたか。	○	183
39-1	文化芸術を鑑賞した、または文化芸術活動を行った場所。	○	185
40	あなたは、調布市を住みよいまちだと思いませんか。	○	187
41	あなたは、調布市内に優れた景観の場所があると思いませんか。	○	190
41-1	優れた景観だと思う場所。		192
42	あなたは、深大寺周辺の景観が優れていると思いませんか。	○	193
43	あなたは、中心市街地（調布・布田・国領駅周辺）が魅力的なまちであると思いませんか。	○	195
44	あなたは、普段どの駅を最も利用しますか。		197
44-1	あなたはその駅（普段最も利用する駅）の周辺は利便性が高いと思いませんか。	○	198
45	あなたは、市内の道路について、道路の利用者が目的地まで行きやすく、利便性の高い道路ネットワークが形成されていると思いませんか。	○	202
46	あなたは、普段利用する道路について、通行しやすいと感じていますか。	○	204
47	あなたは、市内でシェアサイクルを利用したことはありますか。		214
48	あなたは、市内の公共交通機関（電車・路線バス・ミニバス）について利用しやすいと思いませんか。	○	215
49	あなたは、自転車使用時にヘルメットを着用していますか。		218
50	あなたの住居はバリアフリー（段差解消やスロープの設置など）対応になっていますか。	○	219
51	あなたの住居は、再生可能エネルギーを利用していますか。また、創エネルギー設備を設置していますか。		222
52	あなたは、たとえば、あなた自身や家族・親戚が所有する市内の物件について、適切な管理が行われていない空き家とならないための対策が必要だと思いませんか。	○	224
52-1	あなたは、空き家対策として、今後、市が優先して取り組むべきことは何だと思いませんか。		225
53	あなたは、地球温暖化などの環境問題に対し、環境を守るためにどのような取組を行っていますか。	○	227
54	あなたは、この1年間に、身近な人と戦争や平和について話し合ったり、戦争中の話を聞いたりしたことがありますか。	○	229
54-1	それはどんな時ですか。		231
54-2	それは誰と話し合ったり、誰から聞いたりしましたか。		232
55	あなたは、児童虐待やDV（ドメスティックバイオレンス）に関する次の相談窓口を知っていますか。		233
56	あなたは、家事・子育て・介護などの家庭内での役割は男女がともに担う必要があると思いませんか。		237
57	次の場面について、あなたは男女平等だと感じていますか。		240
58	あなたは、多様な性に関する市の取組について知っていますか。		243
59	あなたは、多様な性に関する啓発などについて、どのような取組が必要だと思いませんか。		246
60	あなたは、市政・まちづくりに参加したいと思いませんか。		248
61	あなたは、市民参加の取組を行うとしたら、どのような手法なら参加できますか。また、より多くの市民の意見が行政に届くには、どのような参加手法をとればよいと思いませんか。		249
62	あなたの市政・まちづくりに関する情報の入手方法は何かですか。		253
63	市議会が行っている広報・広聴活動のうち、あなたが知っているものはどれですか。		261
64	あなたが、調布市が行う行政サービスのデジタル化の取組について、特に力を入れて欲しいと思う取組は何かですか。		262

設 問		基本計画 まちづくり指標 (R5～R8)	報告書 掲載頁
問	内 容		
65	調布市がスマートシティを目指すに当たって、ICT（情報通信技術）を活用してほしい分野や、日々の生活で不便さを感じている分野。		264
公共施設マネジメント			
66	あなたは、この1年間に、どのような目的でグリーンホールを利用しましたか。		266
67	現在のグリーンホールの「質の高い文化芸術の鑑賞の場」であり、「市民の文化芸術の発表の場」というコンセプトについて、どう思いますか。		268
68	グリーンホールの整備に当たり、特に重要だと思う項目は何ですか。		269

4 調査方法及び調査期間

調査対象者

市内在住の満16歳以上の市民を対象とし、住民基本台帳から、性別・年齢・地域別の人口構成に合わせて、3,000人を無作為に抽出しました。

配布と回収

郵送により調査票の配布及び回答された調査票の回収を行いました。

あわせて、インターネットを活用した回答の回収も行いました。

調査期間

令和5年11月13日(月)～令和5年12月7日(木)

5 回収の結果

調査票の配布数は3,000件、回収数は1,211件(うち、インターネット回答185件)、回収率は40.4%であり、各属性の回収結果は以下のとおりです。

【図表 属性ごとの回収結果】

属性		対象者数 <sup>※1</sup>		配布数 <sup>※2</sup>		回収数		回収率
		実数	構成比	実数(票)	構成比	実数(票)	構成比	(%)
		(人)	(%)	(a)	(%)	(b)	(%)	(b/a)
総数(16歳以上)		203,195	100.0	3,000	100.0	1,211	100.0	40.4
性別	男性	97,955	48.2	1,458	48.6	497	41.0	34.1
	女性	105,240	51.8	1,542	51.4	691	57.1	44.8
	回答しない (無効回答)	—	—	—	—	15 8	1.2 0.7	— —
年齢	16～19歳	7,996	3.9	117	3.9	27	2.2	23.1
	20～29歳	27,371	13.5	419	14.0	87	7.2	20.8
	30～39歳	29,207	14.4	444	14.8	132	10.9	29.7
	40～49歳	36,111	17.8	549	18.3	196	16.2	35.7
	50～59歳	37,572	18.5	538	17.9	254	21.0	47.2
	60～69歳	23,865	11.7	340	11.3	207	17.1	60.9
	70歳以上 (無効回答)	41,073 —	20.2 —	593 —	19.8 —	302 6	24.9 0.5	50.9 —
年齢 内訳	60～64歳	13,421	6.6	—	—	99	8.2	—
	65～69歳	10,444	5.1	—	—	108	8.9	—
	70～74歳	11,734	5.8	—	—	162	13.4	—
	75歳以上	29,339	14.4	—	—	140	11.6	—
地域	西部地域	36,198	17.8	533	17.8	201	16.6	37.7
	北部地域	43,068	21.2	640	21.3	262	21.6	40.9
	南部地域	72,868	35.9	1,070	35.7	437	36.1	40.8
	東部地域	51,061	25.1	757	25.2	289	23.9	38.2
	(無効回答)	—	—	—	—	22	1.8	—
地域 内訳	南部地域 (中心市街地)	32,699	16.1	—	—	196	16.2	—
	南部地域 (中心市街地以外)	40,169	19.8	—	—	241	19.9	—

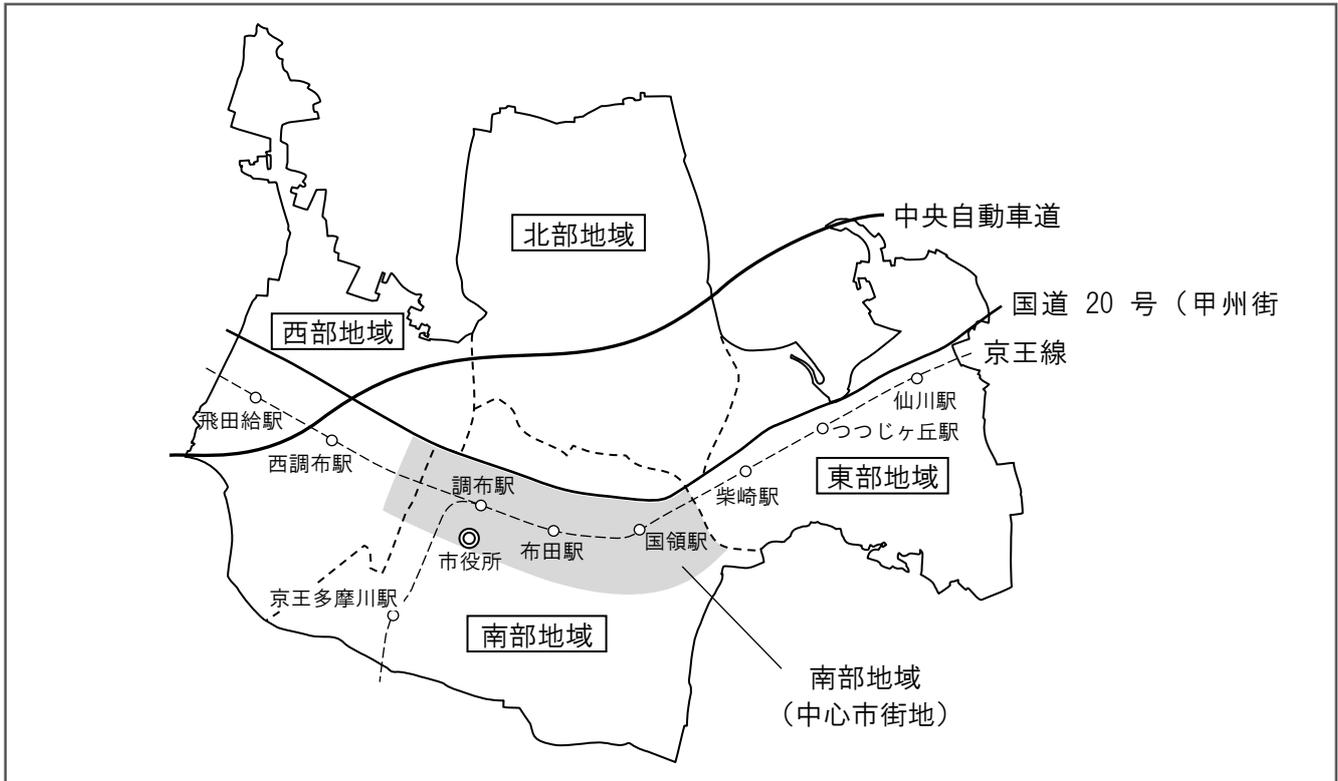
※1 令和5年10月1日現在の16歳以上の住民基本台帳登録者数(日本人のみ)

※2 宛名不明等の理由により返送された分を含む

## 6 地域区分

本調査における地域区分は、以下のとおりです。

【図表 各地域の位置と対象となる町丁目】



1 西部地域	2 北部地域	3 南部地域 (中心市街地)	4 南部地域 (中心市街地以外)	5 東部地域
飛田給 1～3 丁目 上石原 1～3 丁目 富士見町 1～4 丁目 下石原 1～3 丁目 多摩川 1～2 丁目 野水 1～2 丁目 西町	佐須町 1～5 丁目 柴崎 1～2 丁目 調布ヶ丘 3～4 丁目 深大寺元町 1～5 丁目 深大寺北町 1～7 丁目 深大寺東町 1～8 丁目 深大寺南町 1～5 丁目	小島町 1～2 丁目 布田 1～4 丁目 国領町 1～5・8 丁目	小島町 3 丁目 布田 5～6 丁目 国領町 6～7 丁目 染地 1～3 丁目 多摩川 3～7 丁目 調布ヶ丘 1～2 丁目 八雲台 1～2 丁目	菊野台 1～3 丁目 東つつじヶ丘 1～3 丁目 西つつじヶ丘 1～4 丁目 入間町 1～3 丁目 仙川町 1～3 丁目 緑ヶ丘 1～2 丁目 若葉町 1～3 丁目

<参考> 回答率の推移

調査年度	回答率	調査対象者	備考
平成 25 年度	50.8%	満 16 歳以上	
平成 26 年度	49.1%	満 16 歳以上	
平成 27 年度	48.2%	満 16 歳以上	
平成 28 年度	48.7%	満 16 歳以上	
平成 29 年度	45.0%	満 16 歳以上	
平成 30 年度	45.1%	満 16 歳以上	
令和元年度	44.7%	満 16 歳以上	
令和 2 年度	45.0%	満 16 歳以上	
令和 3 年度	36.1%	満 16 歳以上	
令和 4 年度	39.8%	満 16 歳以上	
令和 5 年度	40.4%	満 16 歳以上	

## 7 報告書を見る際の注意事項

### (1) 集計方法

○本調査では、回答全体（n=1,211）をまとめて集計した「単純集計」のほか、過去の調査結果との「経年比較」や、性別や年齢層などの属性ごとに区分して集計した「クロス集計」を行っています。なお、属性によっては、回答数が少ないため、本調査の結果が調布市における当該属性の傾向と異なる可能性があることをご理解のうえ、調査結果をご覧ください。

### (2) 数値の端数処理方法

- 回答比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しているため、百分率の合計が100%にならない場合や、内訳の合計が、表示されている値と一致しない場合があります。
- 上記比率の分母となる回答総数は、「n」として掲載しています。

### (3) その他

- 本文及び図表において、設問選択肢の表記の長いものについては、煩雑さを避けるために、一部で表記を簡略化しています。
- 一般的に、意識調査を実施する際に1,100件程度を対象とすれば母集団全体（本調査では市の人口に相当）の意見との誤差は±3%以内に収まるとされています。本調査の対象者数約3,000人（回収数1,211件）は調査結果を見るうえで、統計上有効な数値であると考えられます。

#### (参考) 意識調査の必要サンプル数の計算方法

一般的な統計理論では、「〇〇について賛成か、反対か」という設問の場合、必要サンプル数は以下の式で求められます。

必要なサンプル数 = 信頼水準の2乗 × 回答比率 × (1 - 回答比率) ÷ 目標誤差 (%) の2乗

(本調査の必要サンプル数:  $(1.96)^2 \times 0.5 \times (1-0.5) \div (0.03)^2 \doteq 1,067$  (票))

信頼水準：正しく判断できる確率のこと。一般的に国などが行っている標本調査では、95%に対応する「1.96」という値が用いられる。

回答比率：賛成または反対の回答比率として設定するもの。通常は、調査対象者数が最大となる「0.5」を用いる。

目標誤差：標本調査（サンプリング調査）と全数調査の結果の間に生じる誤差（標本誤差）の目標値。本調査では±3.0%以内とするので、「0.03」とする。

資料：総務省統計局ホームページ

## 第2章 回答者の属性

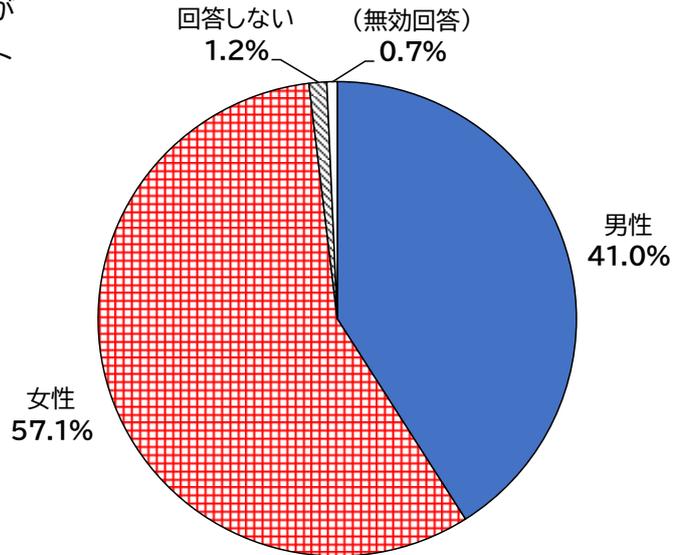
---



(1) 性別

<全体 (n=1,211) >

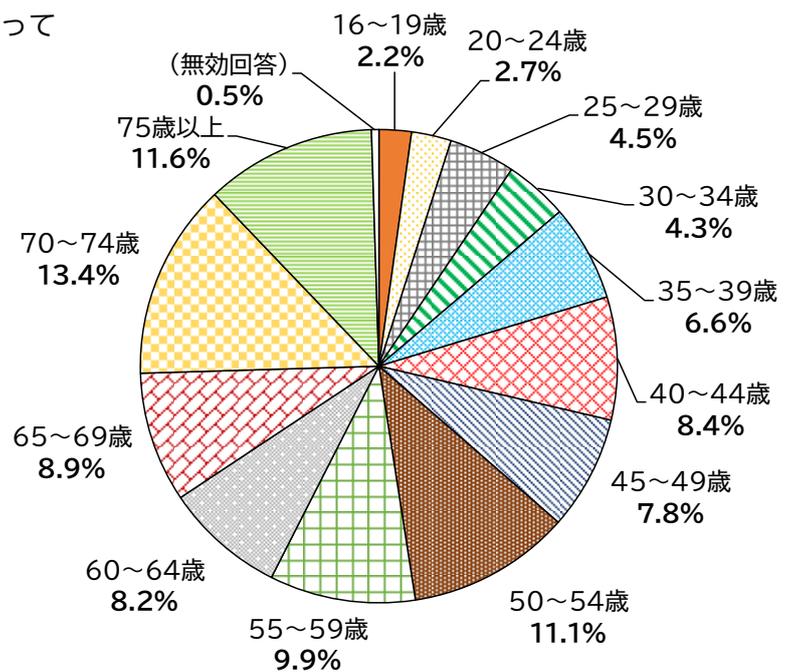
○回答者の性別は、男性が 41.0%，女性が 57.1%であり，女性が男性を 16.1 ポイント上回っています。



(2) 年齢層

<全体 (n=1,211) >

○70 歳以上 (70～74 歳, 75 歳以上) が最も高く，次いで 50 歳代, 60 歳代の順となっています。

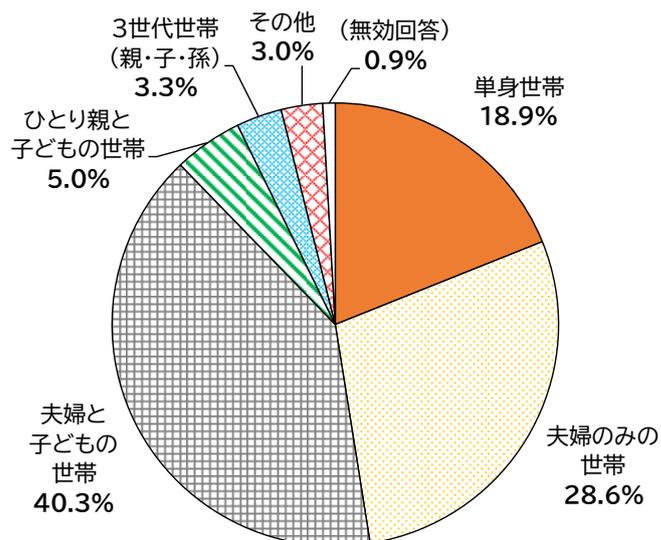


## 第2章 回答者の属性

### (3) 家族構成

<全体 (n=1,211) >

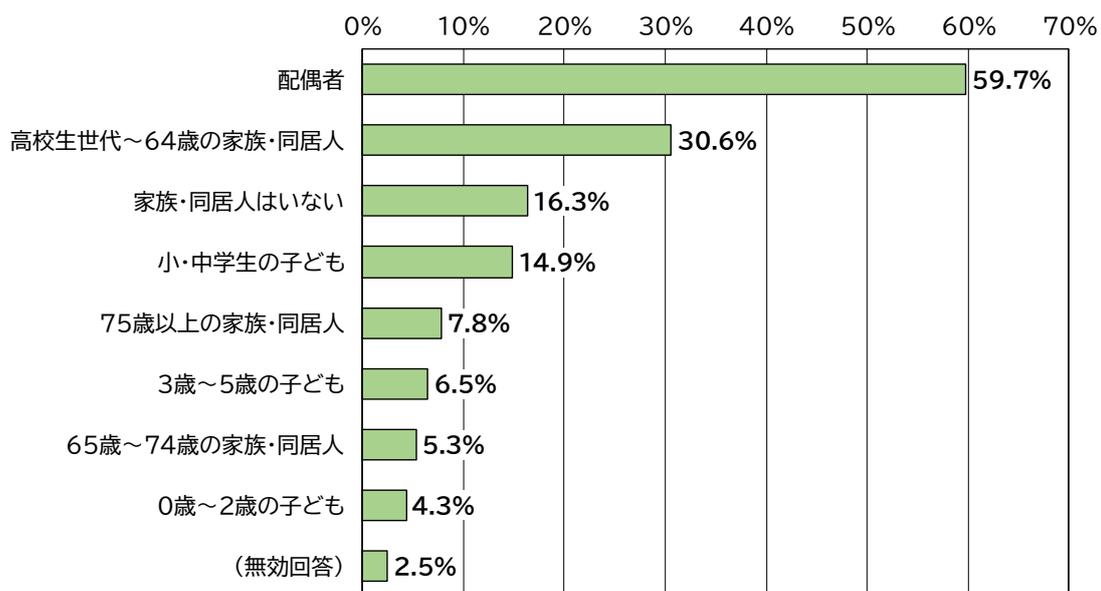
○「夫婦と子どもの世帯」が 40.3%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」の 28.6%、「単身世帯」の 18.9%の順となっています。



### (4) 同居する家族

<全体 (n=1,211) >

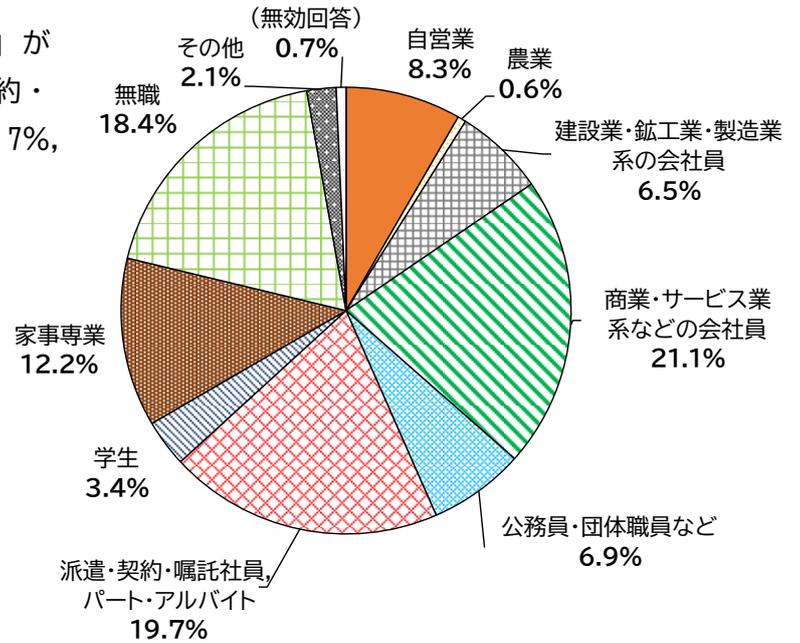
○「配偶者」が 59.7%と最も高く、次いで「高校生世代～64歳の家族・同居人」の 30.6%、「家族・同居人はいない」の 16.3%の順となっています。



(5) 職業

<全体 (n=1,211) >

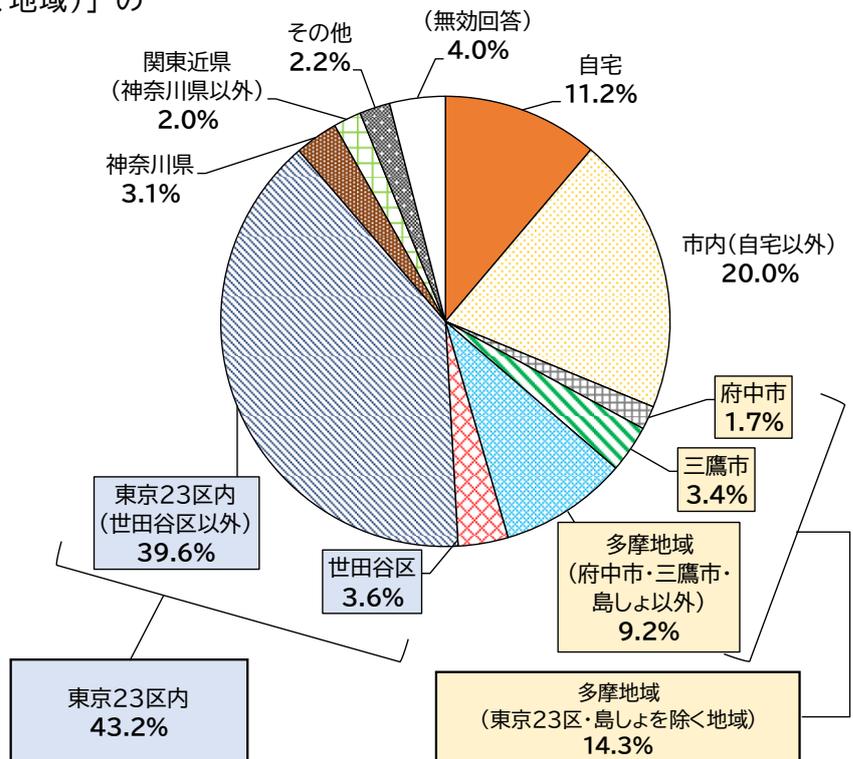
○「商業・サービス業系などの会社員」が21.1%と最も高く、次いで「派遣・契約・嘱託社員、パート・アルバイト」の19.7%、「無職」の18.4%の順となっています。



(5-1) 通勤(就業)・通学先

<全体 (n=805) >

○「東京23区内」が43.2%と最も高く、次いで「市内(自宅以外)」の20.0%、「多摩地域(東京23区・島しょを除く地域)」の14.3%の順となっています。

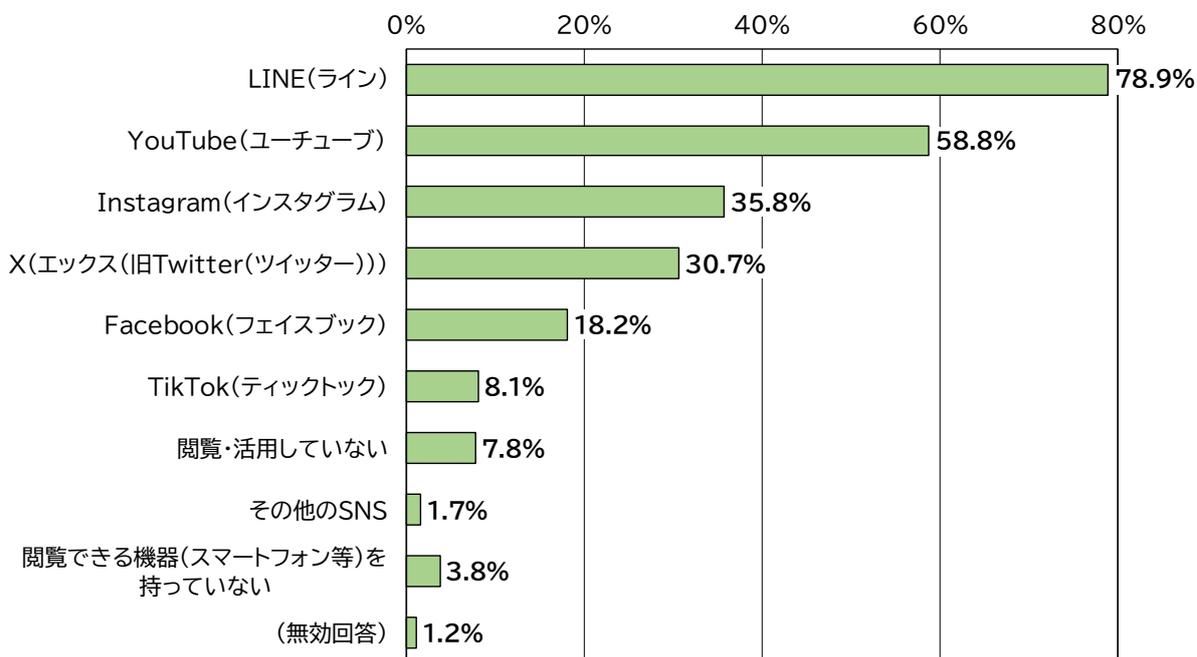


## 第2章 回答者の属性

### (6) 普段閲覧・活用している SNS

<全体 (n=1,211) >

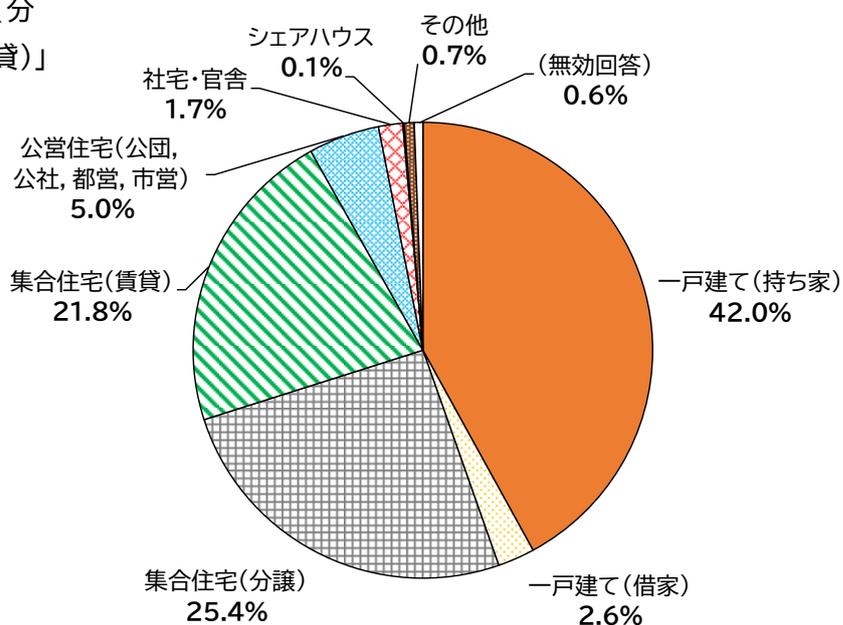
○「LINE (ライン)」が 78.9%と最も高く、次いで「YouTube (ユーチューブ)」の 58.8%、「Instagram (インスタグラム)」の 35.8%の順となっています。



### (7) 居住する住居形態

<全体 (n=1,211) >

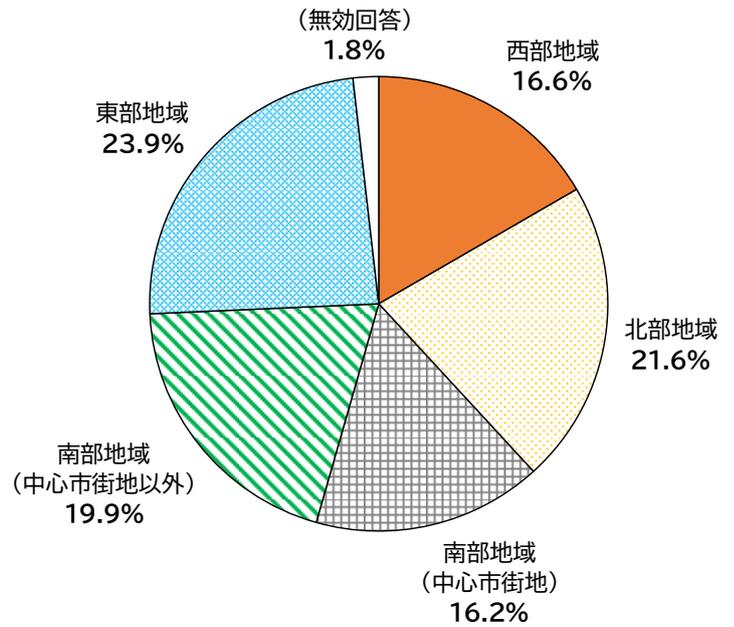
○「一戸建て (持ち家)」が 42.0%と最も高く、次いで「集合住宅 (分譲)」の 25.4%、「集合住宅 (賃貸)」の 21.8%の順となっています。



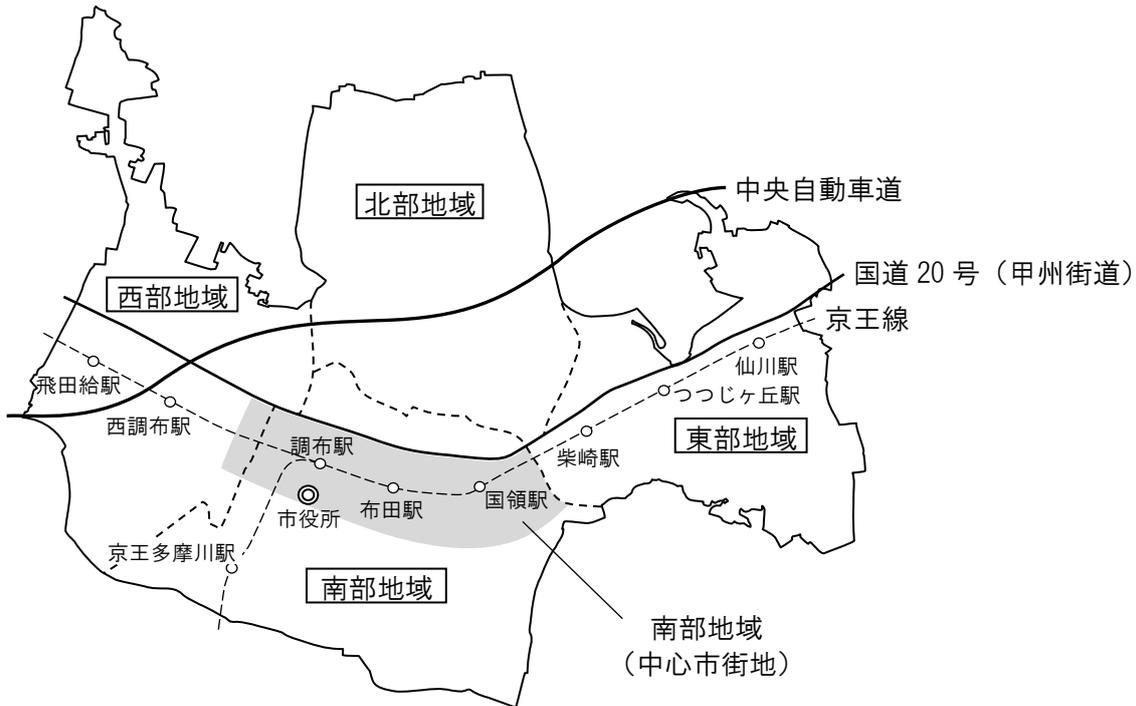
(8) 現在の居住地

<全体 (n=1,211) >

○「東部地域」が 23.9%と最も高く、次いで「北部地域」の 21.6%、「南部地域（中心市街地以外）」の 19.9%の順となっています。



【図表 各地域の位置と対象となる町丁目】



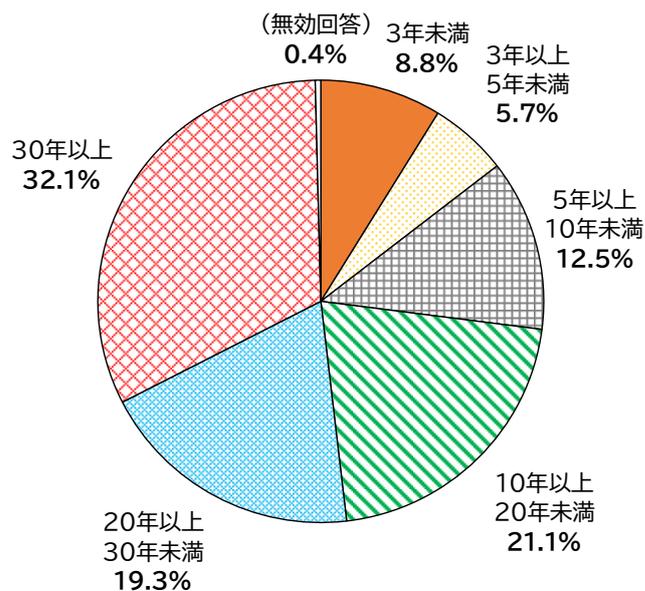
1 西部地域	2 北部地域	3 南部地域 (中心市街地)	4 南部地域 (中心市街地以外)	5 東部地域
飛田給 1~3 丁目 上石原 1~3 丁目 富士見町 1~4 丁目 下石原 1~3 丁目 多摩川 1~2 丁目 野水 1~2 丁目 西町	佐須町 1~5 丁目 柴崎 1~2 丁目 調布ヶ丘 3~4 丁目 深大寺元町 1~5 丁目 深大寺北町 1~7 丁目 深大寺東町 1~8 丁目 深大寺南町 1~5 丁目	小島町 1~2 丁目 布田 1~4 丁目 国領町 1~5・8 丁目	小島町 3 丁目 布田 5~6 丁目 国領町 6~7 丁目 染地 1~3 丁目 多摩川 3~7 丁目 調布ヶ丘 1~2 丁目 八雲台 1~2 丁目	菊野台 1~3 丁目 東つつじヶ丘 1~3 丁目 西つつじヶ丘 1~4 丁目 入間町 1~3 丁目 仙川町 1~3 丁目 緑ヶ丘 1~2 丁目 若葉町 1~3 丁目

## 第2章 回答者の属性

### (9) 居住年数

<全体 (n=1,211) >

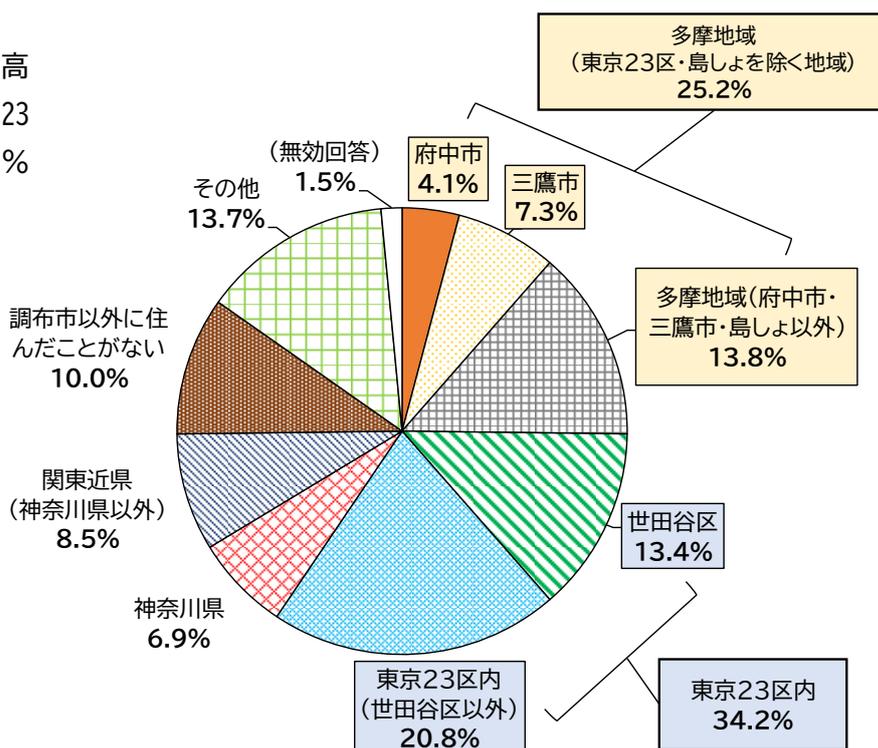
○「30年以上」が32.1%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の21.1%、「20年以上30年未満」の19.3%の順となっています。



### (10) 以前の居住地

<全体 (n=1,211) >

○「東京23区内」が34.2%と最も高く、次いで「多摩地域（東京23区・島しょを除く地域）」の25.2%の順となっています。

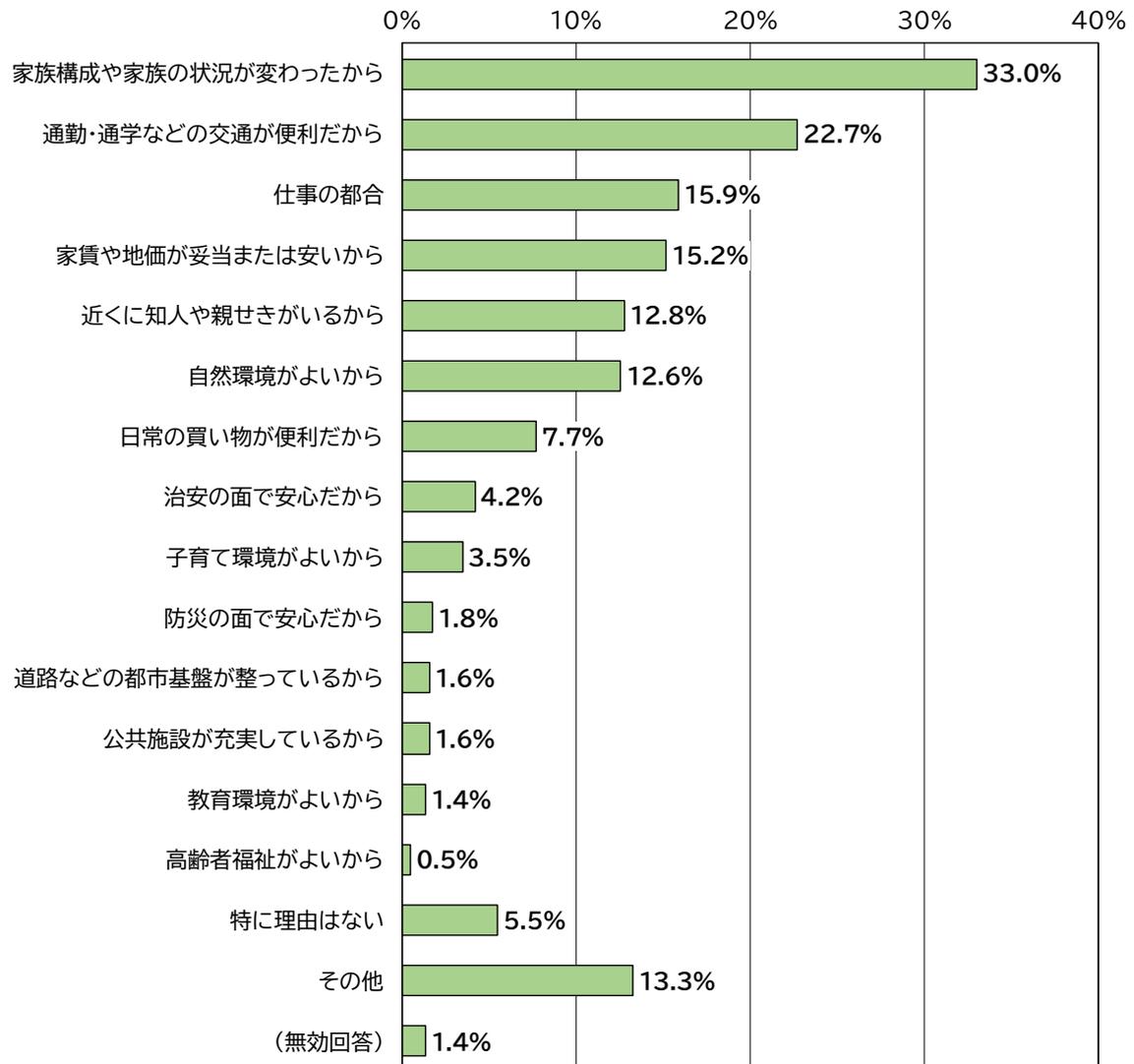


## (10-1) 調布市に住んだきっかけ

&lt;全体 (n=1,072) &gt;

(以前の居住地域が「府中市」「三鷹市」「多摩地域 (府中市・三鷹市・島しょ以外)」「世田谷区」「東京23区内 (世田谷区以外)」「神奈川県」「関東近県 (神奈川県以外)」「その他」である回答者のみ)

○「家族構成や家族の状況が変わったから」が 33.0%と最も高く、次いで「通勤・通学などの交通が便利だから」の 22.7%、「仕事の都合」の 15.9%の順となっています。



## 第2章 回答者の属性

### <同居人別>

○「家族・同居人はいない」を除くすべてで、「家族構成や家族の状況が変わったから」が最も高くなっています。

選択肢	合計	配偶者	0歳～2歳 の子ども	3歳～5歳 の子ども	小・中学生 の子ども	高校生世代 ～64歳の家族・同居人	65歳～74歳 の家族・同居人	75歳以上 の家族・同居人	家族・同居人はいない
全体	1,072	680	51	72	164	313	51	70	172
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
家族構成や家族の状況が変わったから	354	254	29	31	80	127	19	29	27
	33.0%	37.4%	56.9%	43.1%	48.8%	40.6%	37.3%	41.4%	15.7%
通勤・通学などの交通が便利だから	243	159	12	15	38	66	4	6	52
	22.7%	23.4%	23.5%	20.8%	23.2%	21.1%	7.8%	8.6%	30.2%
仕事の都合	170	101	9	15	33	37	6	8	43
	15.9%	14.9%	17.6%	20.8%	20.1%	11.8%	11.8%	11.4%	25.0%
家賃や地価が妥当または安いから	163	115	12	19	30	39	4	2	26
	15.2%	16.9%	23.5%	26.4%	18.3%	12.5%	7.8%	2.9%	15.1%
近くに知人や親せきがいるから	137	95	9	12	36	47	4	4	21
	12.8%	14.0%	17.6%	16.7%	22.0%	15.0%	7.8%	5.7%	12.2%
自然環境がよいから	135	95	3	7	20	36	5	5	18
	12.6%	14.0%	5.9%	9.7%	12.2%	11.5%	9.8%	7.1%	10.5%
日常の買い物が便利だから	83	55	8	4	10	23	3	3	17
	7.7%	8.1%	15.7%	5.6%	6.1%	7.3%	5.9%	4.3%	9.9%
治安の面で安心だから	45	30	5	5	14	10	1	-	8
	4.2%	4.4%	9.8%	6.9%	8.5%	3.2%	2.0%	-	4.7%
子育て環境がよいから	37	30	4	4	15	15	1	1	1
	3.5%	4.4%	7.8%	5.6%	9.1%	4.8%	2.0%	1.4%	0.6%
防災の面で安心だから	19	10	1	1	4	3	1	1	4
	1.8%	1.5%	2.0%	1.4%	2.4%	1.0%	2.0%	1.4%	2.3%
道路などの都市基盤が整っているから	17	12	-	2	4	2	1	-	3
	1.6%	1.8%	-	2.8%	2.4%	0.6%	2.0%	-	1.7%
公共施設が充実しているから	17	9	-	-	1	3	2	-	6
	1.6%	1.3%	-	-	0.6%	1.0%	3.9%	-	3.5%
教育環境がよいから	15	10	-	1	6	7	-	1	2
	1.4%	1.5%	-	1.4%	3.7%	2.2%	-	1.4%	1.2%
高齢者福祉がよいから	5	4	-	-	-	-	1	-	-
	0.5%	0.6%	-	-	-	-	2.0%	-	-
特に理由はない	59	27	-	4	2	16	6	10	8
	5.5%	4.0%	-	5.6%	1.2%	5.1%	11.8%	14.3%	4.7%
その他	143	85	5	6	16	37	9	6	24
	13.3%	12.5%	9.8%	8.3%	9.8%	11.8%	17.6%	8.6%	14.0%
(無効回答)	15	5	-	-	1	7	1	3	1
	1.4%	0.7%	-	-	0.6%	2.2%	2.0%	4.3%	0.6%

(上段：実数(人)，下段：構成比)

回答割合が最も高い：

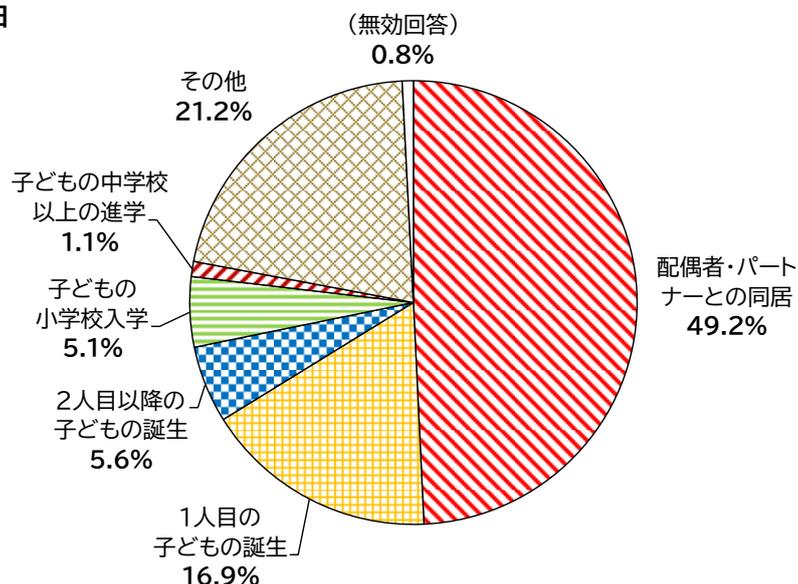
回答割合が2番目に高い：

### (10-2) 家族構成や家族の状況が変わった理由

<全体 (n=354) >

(「家族構成や家族の状況が変わったから」の回答者のみ)

○「配偶者・パートナーとの同居」が49.2%と最も高く、次いで「その他」の21.2%、「1人目の子どもの誕生」の16.9%、「2人目以降の子ども誕生」の5.6%の順となっています。



<同居人別>

○「65歳～74歳の家族・同居人」,「75歳以上の家族・同居人」を除くすべてにおいて、「配偶者・パートナーとの同居」が4割を上回っています。

